

拝啓 今年も早や 11 月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は、夏から秋にかけての天候が不順で、秋晴れの日が少なく、いつのまにか寒くなってしまったという印象です。そのせいか、近所の公園の紅葉がきれいに感じます。雨の日の濡れた紅葉と落ち葉の感じは、特にきれいに感じます。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の 12 回目で、「第 13 講 唯一つだけ」からの紹介ですが、6 ページ「知るも知らぬも天国へ」という項には、次のように書かれています。

「知るも知らぬも天国へ

どうぞ諸君、君らはまだわが名によってまだ祈っていない。『わが名によって祈る祈りは必ず聞いてやる』とイエスは言った。私は、この教会（高円寺東教会）に足を踏み入れた人は、必ず神様が救って下さると私は信ずる。私は祈っている。『この教会に足を一遍でも踏み入れた人は救ってください。イエス・キリストの御名によって祈る』ということを私は祈っています。そうですから私は、この教会へ足を一步でも踏み入れた人は必ず神が救って下さるということを確信している。

私は『われだにも、まず天国に生まれなば、知るも知らぬも皆迎えてん。キリストの名によって祈って』。私は現世においてはこの教会の人の救われることを祈っておりますけれども、今度は天国へ生れたらキリストの名によって祈って、知るも知らぬもすべての人を天国へ引っ張ってもらうことを、神にキリストの名において祈るつもりでいるのです。…すべての人を天国へに導くように私は祈るつもりにしております。」

知っている人も知らない人も皆天国で迎えてあげるといいますから、すごいと思います。私も天国に行けば、まず、小西先生にお会いして、山口、やってまいりました、と報告申し上げることにします。

11 月 2 日（土）には、第 16 回南原繁シンポジウムを開催し、イスラム学者の板垣雄三先生と宗教学者の詩島蘭進先生の講演があり、盛況でした。南原シンポジウムが、あまり苦労したような事もなく、16 回も続いていることはありがたいことだと思います。

11 月 12 日には、本誌読者の佐藤昭夫さんと、2 人で奥多摩の御岳山（929m）に登ってきました。ケーブルカーで上までのぼり、御嶽神社に参拝し、日出山を経て、つるつる温泉で汗を流すというゆったりした登山でしたが、好天に恵まれ、良い山行でした。御嶽山のような軽いハイキング登山が、丁度手ごろな山ということになってきました。

11 月 16 日から 18 日にかけて、岡山（鴨方）、津山に旅行し、鴨方では妻の実家の庭の草刈りをし、津山では、土岐家財団の講演会と理事会に出席しました。

12 月 2 日の夏の坂道シンポジウムの準備を、我が目下の目の前の義務と思い一生懸命やっております。

これからは寒さに向かう季節の変わり目ですが、皆様もお元気でお過ごしください。

2019 年 11 月 26 日

山口周三

エンカウターの読者各位